No.23
2005. 06. 01

# 地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

●出会いからはじまる……1
●ラオス調査報告……2～3
●支援地から　フィリピン……4
●ネパール……5
●カンボジア……6
●ブランチから……7
●ユースクラブ活動……7
●ボランティア体験……7
●活動報告……7
●INFORMATION……8

6月に来日する韓国NGO「地球村分かち合い運動」開発教育チーム幹事パクミョンヒさんと筆者（左）

## 出会いからはじまる

理事長　丸谷　士都子

2005年は戦後60年の節目の年。中国では「抗日戦争勝利60周年」、韓国では「光復（日本の支配から解放されたこと）60周年」と呼ばれています。一方、日韓国交正常化40周年を記念した「日韓友情年2005」の一環で多様な文化交流が企画されています。しかし、お隣の国々と日本の関係は何やら不穏な状況です。メディアからは同じような映像が繰り返し発信され、不安を一層駆り立てている感があります。このような時、私たちは事実をどのようにとらえ、判断したらよいのでしょうか？受け身の情報源に頼らず、多様な方法で情報を手に入れることが大切ですが、さらに人との交流や意見交換が私たちにとって相手のことを知る最良の手段であると思います。

「ヨン様ブーム、なんとくだらないと、ばかにしていましたが、考えを改めました。日本のおばさんたちのパワーは社会を変える力がありますね」と語ったのは、ある韓国NGOの理事長さんです。地球の木では、複数のNGOと共に「南北コリアと日本のともだち展」を開いています。この活動を通して韓国NGOとのおつき合いが深まっています。「私たちにとって、北朝鮮へ支援物資を届けたことがだいじなのです。それをどのように使うかは相手の問題です」理事長さんの言葉を通して、分断された民族の同胞を思う気持ちが伝わってきました。

昨年秋、北京の映画学校の学生が我が家にホームステイしました。サッカーアジア杯日中戦での大ブーイング事件の後でした。彼の出身地は日本軍による被害の多いところだったのですが、若者すべてが反日感情を持っているわけでなく、変化を求めている若者たちも多いということを熱心に話してくれました。

私の友人宅にステイした別の学生は、帰国後、手記を書きました。日本での体験、受け入れ家族との楽しい交流をこまごまとつづった中に、次のようなくだりがありました。

「私の日本のおかあさんは、話題が戦争に及んだとき、おもいがけず中国語で私に言いました。『戦争中のこと、あなた達に申し訳なく思っています。あなた達の祖先に申し訳ないことです』私はとても驚き、普通の市民である彼女の真摯なまなざしを見て、祖先の代わりにお母さんの誠意を受け止めました」

最近の若者は現代史に疎いと言われていますが、若者に限ったことではありません。アジアの隣人たちとつき合おうとする時に歴史の知識の欠落は大きな問題をもたらします。まずは出会うこと。そして疑問に思ったことをきっかけに歴史を学び、未来を共に築いていける関係を創り出したいものです。

今年、地球の木は、アジアとのつながりを持てる機会をたくさん作っていきます。韓国との開発教育交流、これまでも大きな感動と成果を生んでいる支援地へのスタディツアー。国内では、フィリピンからネグロス島の元気なファシリテーター、ラリー・ギリエマさんを招き、ワークショップを企画しています。毎年５月に行われる多文化のおまつり「あーすフェスタ」、７月に東京で行われる「南北コリアと日本のともだち展」、などなど。会員の皆様にたくさんの出会いの場を提供していきたいと思っています。

■発行 特定非営利活動法人 地球の木 理事会 ■発行責任 丸谷士都子 ■編集 広報部 ■事務局 〒231-0032 横浜市中区不老町1-3-3フェニックス関内2F
■TEL 045-228-1575 ■FAX 045-228-1578 ■E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp ■http://homepage1.nifty.com/EarthTree

# ラオス調査報告

2004年1月22日～29日にラオスチーム3名が現地を訪問した。人口約570万人が日本の本州ほどの広さに住む社会主義国家ラオス。国民の80%強が農村部にくらし、農業というよりは森からの林産物を糧とする採取生活を営んでいるのだが…。

貴重な生態系を持つナカイ高原

## 「ボーペンニャンの国」は（なんてことないさ）どこへ向かうのか

ラオスチーム　武安　ますみ

今回は5回目の調査だ。地球の木がJVCのラオス森林保全・自然農業プロジェクトの支援を始めて12年目になる。参加した3人は全員ラオスを初めて訪れたため、それまでの状態との比較こそあまりできなかったが、初めてだからこそ感じるものがたくさんあったと思う。目的は、プロジェクトの状況をみるほか、ラオス国内で急速に進んでいる開発による影響を理解すること、カムアン県プロジェクトが2007年に終了予定のため、その後支援をどうするのか、の視点を持って臨むことであった。

### きっとこれがラオスの豊かさなんだ

ホアイタート村

（135世帯　130家屋　627人）

森での昼食

最初の訪問地ホアイタート村では、村長さんはじめ村の人々、農林局の職員、JVC現地スタッフの方々と合流し、まず森へ入った。抱いていたイメージと違い、爽やかな明るい森だ。ほうきになる草を採りに来て川べりで遊ぶ子ども達、川魚を捕る女性、青く輝く美しい水源…。村の人々と、川岸で輪になって、村での日常の話を聴いた。豊富なハーブ類、水牛の皮、女性が捕っていた川魚、主食のもち米など100%天然の食材のランチは、私たちにはとても新鮮で贅沢な体験となった。その後、村の中のJVC支援の井戸や家庭菜園を見学させてもらった。JVC現地駐在員の名村さんが、まずこの森へ私たちを案内した意図が後になってひしと感じられた。

### 強引に買収される村人の土地

ラオ村

（84世帯　82家屋　418人）

集まってくれた村人たち

2番目に訪れたラオ村で、「私たちの生活は自然と共にある」という村長の言葉から意見交換の時間は始まった。3～4年前に電気がくるようになり、ポンプで灌漑を試みたがすぐに水が枯れてしまい今は行っていないこと、森と共生する暮らしのことをいろいろと聴いた。つい最近この村の10世帯の水田と森が、セメント工場建設のためほとんど強制的に買収されたのだ。村を後に、その場所へ行ってみると広大な土地が乾季の土ぼこりを舞い上げて広がっていた。

### 森の民の行方は？

ナカイヌア村

（88世帯　85家屋　387人）

ナカイヌア村での交流

最後に訪れたナカイヌア村は、ラオス国家の巨大プロジェクトであるNT2（ナムトウン2）ダム計画によりダム湖に沈む18の村のひとつである。JVC事務所のあるタケークの街から車で約2時間（道が随分よくなって時間短縮）で到着。NT2電力会社が村人への説明のために建てた小屋に集まって、意見交換を行った。はじめは暮らしがいかに森林と密接かということだったが、そんな暮らしがダムによる移転で失われてしまう不安の声に変わっていった。小屋の外にもたくさんの人が集まり、窓から積極的に意見を言う女性も！普段は不満や本音をあまり言わない村人の、この勢いに名村さんもびっくりしたという。生活がどうなるのか皆、心底不安なのだ。意見交換の後、村長の家でバーシーの儀式を受け、皆で昼食を頂き、水田や井戸の様子を見せてもらった。

ナカイヌア村で初めて子ども達にカメラを向けた。どこへ行っても子どもの目は輝いているものだ。この子たちが大人になる頃、ラオスはどうなっているのだろう。

＊客の接待・祝い事の時などに、村人が、お客や花嫁花婿の幸福を唱えながら手首に白い糸を巻いてあげる儀式

## 忍び寄る巨大ダムの影　筒井　由紀子

「巨大インフラ事業」と現地の人々。今回のラオス訪問は、私にとって初めてのいわゆる「開発の問題」を実際に体験する機会であった。ラオスのナムトウン2ダム計画は、総事業費は12億ドルで、ラオスのGDPの70パーセントにも相当するというまさに国家プロジェクトである。私たちが訪れたナカイヌア村の住民を含む約6,000人の立ち退き住民、そして10万人を超える流域の農村住民に被害をもたらし、アジア象など貴重な野生動物の生息地にも大きな影響を与えるとして、国際的に最も論議を呼んでいる大規模インフラ事業である。

現地で聞いた村の人々の声が忘れられない。代替地の水田は極端に少なくなるため、大切な水牛を手放さなければならないという。主食のお米が作れなくなる不安、人々が日常食べる習慣もないアスパラガスやピーナッツなどの換金作物を作って売れというが果たしてそんなことができるのかという不安などなど。そして拒否する術のない人たちはその決定に従うしかない。

今回帰国してから「*メコンウォッチ」の誘いを受け、世界銀行の人たちとの意見交換のミーティングに参加した。世銀の人たちは自信ありげに「ラオスは貧しい国である」「私たちはラオスを貧困から救わなければならない。そのためにもダムの建設が必要だ」という。私たちが出会ったナカイヌア村の人々は、確かに病気になれば私たちが受けるような治療は受けられないし、私たちのような「便利な生活」もしていない。しかし本当にラオスに住む彼らは「貧しく」、日本に住む私たちは「豊か」なのだろうか？GNPなどでは計れない自然の恵み、地域のつながりで循環するモノやサービスの価値は、私たちの想像をはるかに超えるものかもしれない。開発の問題・・・大きな課題である。

＊メコン河流域国の開発を見つめ、その弊害の回避・軽減を図るNGO

## ラオス点描　中野　真理子

### ラオスの市場

タケクの市場

見知らぬ町で市場を訪れるのは楽しい。ラオスの市場もわくわくさせる活気に満ち、豊かな食生活をほうふつとさせた。

市場を回ってみると、野菜の種類が豊富なことにまず目を見張る。真っ赤な唐辛子や緑のみずみずしい生野菜があざやかだ。サラダ菜のような野菜、レモングラスなどの多くのハーブ類（ラオスでは食事の時必ず、こういったハーブ類がお皿いっぱい出される）の他、ねぎ、きゅうり、ゴーヤ、ナス、カリフラワー、トマト、数種類のたけのこなどなど。魚もメコン川の色々な川魚がならぶ。肉はといえば、牛、豚、水牛の部分肉を塊で売っている。他にも水牛の皮の揚げたものや、干し肉、それにひずめのついた足も。女性達が店番しながら、ビニール袋を棒の先に縛り付けて、振ってハエを追い払っている。カメラを向けると自然な笑顔で答えてくれた。

### 托　鉢

ラオスは国民の6割が信心深い仏教徒だそうだ。訪れたどの村にも広場のようなところにお寺があり、集会所のような役割も果たしている。ビエンチャンでは立派なお寺が街のそこここにあり、オレンジ色の袈裟をまとったお坊さんをよく見かけた。　お坊さんの托鉢が見られると聞いて朝6時過ぎに町に出てみた。通りの角ごとに一人ふたり人が出て、ご飯を用意して待っている。向こうの角から7～8人のオレンジ色の一団が一列になってやってきた。男性はひざまずいてこの托鉢の一団を迎え、一人ひとりにご飯をさしだす。お坊さんはご飯用の竹篭（ティップ・カウ）に受け取り、短いお経をあげて又一列になって歩き出す。次の角でも同様のことが繰り返され、街を練り歩いて7時過ぎには寺に戻って托鉢で提供された朝食をとるということだ。若いお坊さんのいがぐり頭がさわやかだった。

現地発

## ラオスで育つこどもたち

名村　雅代（在ラオス）

JVC現地スタッフとして夫が赴任するのにともない、息子をつれてラオスにやってきてはや3年。よちよち歩きの1歳だった息子は、生意気盛りの4歳児になった。

現在この国で育つ日本人の幼稚園児は10人あまり。多くは2，3年を目処にした日本からの駐在員家庭で、はじめは医療事情に不安を抱えて赴任してくるが、次第に、どこにいてもけっこう子どもは元気に育つものだ、ということに親の方が鍛えられてゆく。いつのまにか、医療事情の貧しさはそれほど気にならなくなる。それというのも医療の不安を補ってあまりあるほどの、ラオスにおける子育てのメリットに気づくからだ。

それはラオス人の国民性だ。とにかくだれもが子ども好きなのだ。老若男女、誰もが子どもの扱いがうまい。安心して任せられる。たとえばこんなふうだ。子連れで食堂に行き、ビールなど飲んで座が長くなってくると、手の空いたウェイターのお兄さんが、にこにこと寄ってきて子どもを抱っこしてゆき、店の前で道行く車を眺めながら、あやしてくれる。また、食堂の奥が、ついたて一枚で仕切られた家族の居間だったりすると、わが息子は奥につれてゆかれ食堂の家族の輪に混ざって、アイスキャンディなどもらって一緒にテレビを見ていたりする。

子どもたちは、これからの人生の長い旅路で人間不信に傷つくこともあるだろう。けれどいま幼児期を、親以外の大人までが惜しみなく愛情を注いでくれるこの国ですごすことで、一番奥ふかいところで人に対する信頼の根っこが、はぐくまれているような気がする。

ラオスの子どもたち

# 支援地から
# フィリピン

## レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト

フィリピンチーム　米林　大作

### なぜ今「レッツ・ゴー！ファミリー」なのか

日本で「レッツ・ゴー！ファミリー」ならわかるけど、家族の絆の強いフィリピンで「なぜ？」と思われる方もあるかもしれません。ちょっとその背景を説明します。ネグロスの支援はご存知のように、元砂糖農園労働者の自立を目標にしています。現地NGO「PAP21」では現在6ヶ所の農園を支援しています。それぞれの農園では土地獲得闘争の際に労働者の組合が作られました。その後、その組合は農作物の生産組合に移行していきます。農作物は換金しやすい砂糖キビが協同耕作により作られました。それに自給用に米なども作られます。しかし国際市場品である砂糖に相変わらず頼っていることや、協同耕作による弊害も現われてきました。地主の元で働いていた時の環境が変わったにもかかわらず、仕事をサボる人が出てきてしまう。このようなことから、協同から家族単位へ、砂糖から有機野菜への転換が行われました。そして、意欲があり多少でも砂糖以外の作物を作った経験のある人の中からモデル農家が選ばれ、有機野菜づくりが始まりました。地球の木では、モデル農家として経済的自立をめざすそれらの家族を応援するため「レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト」をスタートさせました。このプロジェクトは2004年から3ヵ年で30戸のモデル農家の「農業経営基盤づくり」を目標としています。

### 夫婦の協力がモデル農家成功の鍵

☆「カルロス＆マリアフェ」ファミリーの場合
（サンフリアン農園）
子ども4人、野菜0.5ヘクタール、米0.22ヘクタール、砂糖（協同耕作）5.5ヘクタール

カルロスさんはモデル農家で一番の有機農業実践家。奥さんのマリアフェさんは現在、モデル農家で唯一自分たちの野菜を使って惣菜を作って収入を得ています。栽培する野菜は9種類になりました。乾季に川から水を運ぶのが大変なので、今年は融資を受けてポンプを導入する予定です。2004年末の野菜による収入は1ヶ月で4,000ペソ（1ペソは約2円）です。この内の半額はマリアフェさんの惣菜収入。

有機野菜宣伝用のビラ

☆「ビセンテ＆エルサ」ファミリーの場合
（ビノブハン農園）
子ども8人、野菜0.7ヘクタール、米と砂糖で１ヘクタール

ビセンテさんはモデル農家の中で一番大規模に有機野菜をつくっている努力家です。なんとか自分が成功例となりあとについて来る仲間を増やしたいと思っています。畑に仮小屋まで建ててしまいました。奥さんのエルサさんは静かな人ですが、女性プログラムには必ず参加しています。栽培する野菜は7種類になりました。乾季の最もきびしくなる3、4月は栽培が難しくなるので、今年は融資を受けてポンプを導入する予定です。

ビノブハン農園のビセンテさんの畑
ニガウリの棚

☆「ジョエル＆ラニ」ファミリーの場合（メルセデス農園）
子ども3人、野菜0.1ヘクタール、米１ヘクタール、砂糖0.5ヘクタール

ラニさんと長ウリ

ジョエルさんは元砂糖労働者同盟の活動家と言う変り種。奥さんのラニさんは保健婦をしています。子どもたちのラーニング・センターの先生もしていました。栽培した野菜は、ラニさんの仕事仲間の医者や助産婦にも売っています。栽培する野菜は8種類になりました。

### プロジェクトのめざすもの

ネグロスで生活している日本ネグロス・キャンペーン委員会の大橋さんによると、ネグロスの農家で1ヶ月6,000ペソ（約1万2000円）の収入があれば、子どもをハイスクールに行かせ何とか生活をしていけるそうです。前記のカルロスさん、ビセンテさんの収入は純益にするともっと少なくなりますが、6,000ペソは手の届かない数値ではないと思います。このプロジェクトが目標とする「農家の経営基盤づくり」とは、もっと現実的に言えば循環型農業で「1ヶ月の収入が6,000ペソ」になるモデル農家をつくるとも言えるのではないでしょうか。

# 支援地から ネパール

## ネパール教育支援プロジェクト

ネパールチーム　乳井　京子

### ネパール・プロジェクトの背景

ネパールは、自然、文化、社会面で、豊かな国になる多くの可能性を持った国です。しかし、これらの資源は充分に活用されておらず、ネパールは世界で最も貧しい国々に類しています。資源が充分に活用されない理由の一つにネパール人の社会的な価値観が挙げられます。何ごとにも呑気に構え、神頼みで、身分制度は変えられないと信じる価値観です。女性と低カーストの人々は、教育、意思決定、地域活動などすべての面で、男性とカーストの高い人々から機会を与えられることは殆どないという社会的、文化的なタブーもあります。

SOARSから送られてきた2004年度年次報告書の一節です。地球の木が1997年から支援を行ってきたカイラリ郡の先住民族タルー族は低いカーストに属しています。特に女性の地位は低く、支援を始めた頃には村で読み書きができる女性は数えるほどしかいませんでした。

### 2004年度、私たちの目標と成果

#### 極西部では

30度を超す暑さにもめげず勉強する生徒たち

2004年度は、「成人識字率100%を達成したニムディ村に続き、更に2つの村を識字率100%で病気と貧困から解放されたモデル村にしよう」という3カ年計画の1年目でした。二村とはデブラニが先生をしていたベラール村と嫁ぎ先のボンカタ村です。識字教育を受けて社会意識に目覚めたデブラニの「結婚後も引き続き教えたい」という熱意に応えて村が選定されました。支援地の人々が自ら意思決定に加わり、地域開発を推進していく。私たちが目指していた「持続可能な開発」に一歩近づいたといえます。2003年度に始まった8クラスを含む15の識字教室が終了し、381名が参加しました。元カマイヤ（債務労働者）のクラスも実施されました。

識字教室で植林の必要性を学んだ人々は、自主的に苗を植え始めました。知識を植えつける教育ではなく、「気づきの教育」こそ、今の日本にも求められている教育ではないでしょうか。人々は、自分たちも力を合わせれば地域に貢献できることに気づき、行動し始めたのです。識字教育は人々の価値観を変え、行動を呼び覚ます力を持っているようです。

自主的に苗を植える生徒たち

#### イマドール村でも

地球の木は、2002年からカトマンドゥ近郊のニルマラさんの住む地域で、女性グループ、NGOリーダー、青少年の育成プログラムを支援してきました。2004年度は、女性グループ、NGOリーダーの育成トレーニング（各50名が参加）が実施されました。青少年グループは、環境、教育などの分野で独自の行動を起こし、女性たちの中にも大きな変化を見ることができました。人材育成センターにカーストの異なる人々が集い、これまではタブーとされていた習慣を打ち破って、一緒に食事をしたり、食事をつくったりという、信じられないような光景が繰り広げられています。人材育成センターはお寺と同じ、誰でも入って来られる空間で、古い因習から人々を少しずつ解放し、行動する力を生み出しています。未来を担うリーダーたちが育っています。2004年度は、調査とスタディツアーで2度イマドールを訪れ、村の女性たち、青少年そしてSOARSを支えるNGOの人々とも交流し、学びあうことができました

「ビニール袋を使うのを止めよう」
「環境の日」にパレードする青少年グループ

### 2005年度は

極西部では、引き続き、識字率100%で病気と貧困から解放されたモデル村づくり、女性のエンパワメントに力をいれます。イマドール村では協同組合をめざしたトレーニング、NGOリーダー、青少年の育成を支援していきます。また、調査とスタディツアーも企画し、多くの人に現地の人々と触れ合ってほしいと思っています。

# 支援地から
# カンボジア

## カンボジア・チャイルドケアセンター支援プロジェクト

カンボジアチーム　小泉　恵子

### 子どもたちの自立にむけて

はずかしそうに
歌を歌う子

1998年、孤児のための小さな家をカンボジアのバッタンバン郊外の村はずれにある、NGOの有機栽培農場の片隅に建設し、3人の子どもたちを受け入れてから8年がたとうとしています。地球の木ではチャイルドケアセンターの建設費の支援を行い、3名の子どもの里親となり、寮母さんの給料や2ヘクタールの田んぼの買い付けを行いました。

ほくぶブランチからの支援を引き継ぎ地球の木全体の取り組みになって6年目の今年は、子どもたちの成長とともにひとつの区切りの年となります。20名の子どもたちはそれぞれの里親の支援を受けて、生活と教育を保障されるようになりました。

子どもたちの生活の場所もバッタンバンオフィス、シェムリアップのセンター、バッタンバン農場のセンター、バッタンバン付近のお寺へと数ヶ所に別れて自立を目指しています。元気に毎日を送っている子どもたちの生き生きとした顔が目に浮かんできます。進学を目指す子ども、農業を目指す子ども、伝統舞踊をがんばる子どもなどなどです。

カンボジアも急速な経済発展の中で高学歴が求められるようになりました。チャイルドケアセンターの発足当初は、高校卒業という高学歴（カンボジアの農村では少ない）が子どもたちの自立のために必要になるとは考えられませんでした。しかし現在は将来の自立に向けて高校を卒業していたほうがよいのではと方針を変えました。

友だちの顔を描いて
「いいとこ探し」

### 2005年に向けて

2期6年にわたって支援してきたるしなに対する支援は今年度を最後に終了し、3人の子どもたちの里親としての支援は、会員から里親を募ることで継続し、3人の子どもたちの経済的自立が果たされる日まで見守っていきます。

ただし、るしなとの交流は今後も続けカンボジアやメコン川流域の環境問題や、平和、人権に対して問題意識を持って情報を会員の皆様に伝えていこうと思います。

最近の現地からの報告です

### 伝統舞踊と子どもたち

シェムリアップには伝統舞踊を子どもたちに教えるNGOがあり、チャイルドケアセンターの子どもたちも喜んで通っていましたが、現在ではそこで舞踊を習うことを中止させています。そのNGOのシステムとして、舞踊ができるようになった子どもたちから順々にホテルやレストランでの舞台に出して、収入をNGOと本人双方が得るようにしています。しかし、るしなで確認したところ、ホテルやレストランまでの“行き”はNGOが責任を持つが、“帰り”は個々人が勝手に家に帰るとのことでした。夜遅くの帰り道で事故に遭ったり、ホテルやレストランの客から無理なことを子どもたちに要求され、事故が生じてもNGOは責任をとれないとのことだったので、るしなとしてはそんな場所で子どもたちを働かせる訳にはいかない、との判断によるものです。伝統舞踊の練習は、現在、シェムリアップで自分たちで行っており、よい指導者を見つけて稽古を続けてもらいたいです。

シェムリアップのモロッポー・カフェ（るしな代表の家族経営）で試験的に子どもたちの伝統舞踊を披露してもらってみました。お客さんの反応は大変よく、蜂蜜やコーヒー豆、胡椒等のグッズもよく売れました。今後、さとうやしの葉で手作りの箱を子どもたちに作ってもらい、販売を促進する中で、子どもたちと一緒にチャイルドケアセンタープロジェクトの資金を産み出していきたいと考えます。

（るしな代表　松本　清嗣）

伝統舞踊に真剣な表情

## ブランチから

### 大和から平和の風が吹いた

地球の木の“ブランチがもっと元気になろう！”をテーマに2004年度が始まった中で、世界の人たちが共に生きよう、アジアの人たちの暮らしを知ろうという接点から、「地球のステージ」を、ブランチ連絡会が中心となり企画しました。

2月12日好天に恵まれた、あわただしい季節の一日。いつもの「アメージング・グレース」の曲によって「地球のステージ」は始まりました。

スクリーンいっぱいに映し出される世界の美しい風景、つらい情景、子どもたちのキラリと光る顔、家族のために働く姿、親子の強い結びつき、銃弾の痕で埋めつくされた建物。静かなメロディー、力強いメロディーにのせて「争いはいけないもの」とは決して表現しないがそのメッセージが胸に届きました。このステージを機にこの日、大和に集まった人々の中から人を想うやさしいこころの風がそよそよと吹き始めたことを実感しました。

（湘南ブランチ　國分　純子）

## ユースクラブの活動

### 多くの人に支えられて

私たち地球の木・ユースクラブは毎回たくさんの事を学んで成長しています。今までに学習会で「本当の豊かさとは？」「児童労働」などについて互いに発表し合ったり、海外の事情について学んだりしました。毎回一つの学習会でそれぞれの経験・考え方から意見を交換するので、とても面白い場になります。ユースクラブのメンバーは皆明るく、真剣に活動している人ばかりです。

そして、私たちは地球の木のサポートに支えられています。最近マジカルバナナを地球市民教育担当の中野さんから習いました。地球の木の方々はそれぞれ色々な面白い話を私たちに聞かせてくれたりします。その度に、知らなかった世界が見えてきます。特に乳井さんは毎回私たちユースクラブに力の限り両手を広げて支えてくれている気がします。そんなたくさんの支えの中で活動している私たちは本当に幸せだと思います。

また創価大学で「Save Children Network」を立ち上げた方からユースクラブの理念を決める上で良いアドバイスを頂いたり、草の根援助運動の「P2 Youth」の方と意見交換して、私たちユースクラブもようやく根を土に張り出した感じです。これから私たちは海外スタディツアーで使えるような日本紹介カルタ(英語版)を作ることとマジカルバナナを活用していくこと、またネパールスタディツアーにも参加しようとしています。私たちにできることを何かしようと思っているのでイベント・お手伝い、なんでもぜひ声をかけて下さい！！

（ユースクラブ　高橋　治奈）

## ボランティア体験

### 横浜インターナショナルスクール

私たちは横浜インターナショナルスクールに通う高校二年生です。私たちが地球の木のボランテイア活動を始めてから約9ヶ月が過ぎました。デブラニ物語の紙芝居づくりやスマトラ募金の募金箱作りを通していろいろなことを学び、思い、感じました。制作過程でいろいろと大変な事もありましたが楽しくできました。

地球の木の活動に参加することにより私たちがいかに裕福な生活を送っているのか実感しました。ネパールでは私たちよりひと回りも幼い子が家族の為にお金を稼いだりしています。しかし私たちは親に頼りっぱなしです。何かの役に立てればと地球の木の活動に積極的に参加しています。塵も積もれば山となります。どんな些細なことでも誰かのためになるのです。これからも積極的に活動に参加して行きたいと思います。

## 活動報告（3月～5月）

3月　6日　「ラウンジまつり」港南交流ラウンジ（なんぶ）
8日、15日　スマトラ沖地震・津波被害者支援募金キャンペーン（東戸塚デポー）
15日　アジアン・フェアーat旭センター（西部ブランチ対象）
19日　地球の木・JVCラオスジョイントセミナー「森の民はどこへ行く？」（ラオスチーム）
24日　ネパール学習会「ネパールのコラムニストを迎えて」（ネパールチーム）
26~27日　DEAR教材体験フェスタでマジカルバナナワークショップ
27日　アソシエーション文化祭（フォーラム・アソシエ）
29日　NEWマジカルバナナ　ファシリテーター養成講座
30日　スマトラ沖地震被災者支援バザー
31日　JVCラオススタッフ帰国報告会（ラオスチーム）

4月　9日　フィリピン報告集会（湘南ブランチ）
16日　市民活動フェア2005
17日　春の講演会「森・都会・人間」（ラオスチーム）
26日　平楽中学校教員研修　出前講座
29日　環境と平和を考えるDAY　（湘南生活クラブ）
5月　1日　横浜インターナショナルスクール・フードフェスタ
7日　平楽中学校国際学習講師　出前講座
14~15日　あーすフェスタ
21日　なんぶ総会
22日　地球の木総会
29日　かまくら環境会議総会で調査報告

## スマトラ募金へのご協力 ありがとうございました

皆さまからお寄せいただいた募金の中から40万円をスリランカで活動するNGO、PARC（NPO法人アジア太平洋資料センター）に送り、北部、東海岸にあるマルダンガーニー区域の被災者たちの仮設住宅建設に使っていただきました。

被災地では、津波直後に避難キャンプが設けられ、被災者はビニールシート製のテントで生活していました。しかし、スリランカは日中、気温が30度を越す暑さのため、テントの中は息苦しいほどの蒸し暑さで、生活するのが困難でした。そのため、風通しが良く過ごしやすい、ヤシの葉を編んだ「カジャン」を使った仮設住宅の建設が各地で進められました。

「カジャン」はスリランカで伝統的に使われてきた建築資材で、ヤシの葉を塩漬けし、天日に干して強度を持たせたものを編んで作ります。避難キャンプで生活している女性たちは編む技術を身につけて収入を得られるようになりました。仮設住宅一軒あたり約200枚のカジャンが使用され、100軒を供給することができました。

今後も引き続き支援を行っていきます。
（5月16日現在、総額565,361円）

現地の状況はホームページhttp://www.parc-jp.orgをご覧ください。

## ラオス連続学習会 もっと知りたい！豊かな国ラオス

「ラオス概説」をテキストに歴史・文化・政治などラオスのことをラオスチームと一緒に勉強しませんか？

日　時：（1）6月8日（水）（2）6月29日（水）
（3）7月13日（水）（4）7月27日（水）
いずれも14：00〜16：00
場　所：神奈川県民活動サポートセンター9階
フリースペース　（横浜駅西口徒歩7分）
参加費：各回300円

## マジカルシュガー教材作りに参加しませんか

甘い砂糖から甘くない現実の世界を考えます。
日　時：毎月第1月曜日　13：30〜15：30
場　所：地球の木事務所

## 未使用切手募集

皆さんからご寄付いただいた未使用切手は4月末現在で13.425円となりました。引き続き募集いたしますのでぜひご協力ください。

## 韓国NGOとの開発教育交流

韓国NGO「地球村分かち合い運動」とは、世界の貧困解決と市民社会の発展を目標として98年に設立された国際協力団体です。支援地はベトナム、モンゴル、カンボジア、イラクなど。活動の一環として、会員の主婦たちが連続講座（スタディーツアーを含む）を終了後、学校で国際理解講座をおこなう「地球市民学校」を実施しています。今回「地球市民学校」の教師をしている主婦たちが来日し、地球の木と交流をおこないます。

### ■「地球村分かち合い運動」との交流ワークショップ

日　程：6月18日（土）10：30〜17：00
場　所：JICA横浜センター　（桜木町駅下車徒歩10分）
参加費：500円
内　容：日韓のワークショップ紹介など、交流会

### ■ 韓国ソウル訪問

日　程：9月22日（木）〜25日（日）予定
内　容：開発教育交流ワークショップ、学校・NGO訪問
ホームステイ、市内観光など
募集人員：6〜8人
参加費：5万円程度（渡航費・滞在費込み）
＊いずれも事務局までお申込みください。

## フィリピン・ネグロス島の ラリーさん交流プログラム

ラリー・ギリエマさん：フィリピンNGO、PAP21契約スタッフ。青少年スタディツアーではワークショップを担当。行動する若きアーティストでもある。

### ■ 夏休み親子ワークショップ「ネグロスからの風」

共　催：フォーラム・アソシエ、地球の木
日　程：8月25日（木）、26日（金）
内　容：ワークショップ「バランゴンバナナの生まれたところ…」
募集人員：各日30人
場　所：オルタ館

### ■ 青少年一泊ワークショップ「ネグロスから学ぶ一若者に生きる力を！」

日　程：8月27日（土）〜28日（日）
対　象：中学生、高校生（20人）
場　所：横浜市野島青少年研修センター
参加費：5,000円

### ■ 地球の木とラリーさんの交流会

日　程：8月29日（月）
対　象：地球の木会員、青少年スタディーツアー参加者
場　所：オルタ館（予定）

＊詳細は事務局までお問い合わせください。

## 通訳・アテンド・ホームステイ募集

★韓国からの5名のゲストのホームステイ先（6月18日）を募集します。通訳、アテンドも同時に募集しています。
★ラリーさんのホームステイ先（8月23日〜29日の期間の何日でも）、アテンドも募集しています。

★ボランティア募集！発送作業、イベント手伝いなど